

新除草・調節剤

ので、過熱にならないよう適期に収穫すること。
⑥本剤は、一般作物に微量でホルモン作用をあらわすので、周辺作物にかからないように注意すること。また、使用後の散布器具は、十分に洗淨すること。⑦調製した薬液は、その日のうちに使用すること。また、他剤との混用はさけること。⑧冬期には、液剤の凍結のおそれがあるので、保存には十分に注意すること。

マデック M C P B 乳 剤

(取扱メーカー) 兼 商 株 式 会 社

対象作物：りんご(デリシャス系)・日本なし。

成分・作用特性：本剤は、2-メチル-4-クロルフェノキシ酪酸エチルを20%含有する淡黄かっ色澄明可乳化油状の液体である。

本剤は、オーキシン系化合物の植物ホルモンで、ホルモン作用によって直接果梗基部の離層の形成が阻害されることにより、落果が抑制されると考えられる。すなわち、落果が始まるのは果実の成熟期が近づくと結果枝と果梗の部分のオーキシンのバランスがくずれてきて果梗の基部に細胞分裂が生じ、その後分離層の細胞を結合している層の物質が化学変化をおこし、それが次第にコルク化して離層となってくる。したがって本剤を散布することで、植物体内の植物ホルモンが補給され、離層の出来るのが遅延されることになり、落果が抑えられる。

特徴：①収穫前の散布で速効的にりんご・日本なしの落果を防止する。②りんご・日本なしの各品種に薬害がない。③着色が促進され、品質が向上する。④りんごは2回散布を必要とす

るが、日本なしは1回散布で効果を発揮する。

毒性：急性経口毒性は、ラット♂ 1,570 mg/kg, ♀ 1,400 mg/kg, で普通物。魚毒性は、B類である。

使用方法：リンゴ(デリシャス系)・日本なしの収穫前の落果防止を目的に、りんごの場合は、収穫開始予定日の25日前および15日前の2回、6,000倍(10アール当り散布液量は300～600 l)を立木全面散布する。日本なしの場合は、収穫開始予定日の7日前に1回、6,000倍(10アール当り散布液量は200～300 l)を立木全面散布する。

使用上の注意：特に散布に当っては次の点に留意する。①樹全体(特に果梗部を中心に)にむらなくていねいに散布する。②散布日はなるべく好天の日を選んで散布する。③展着剤を加用すると効果的である。④散布液はその日のうちに使用する。⑤殺菌剤・殺虫剤など他剤との混用はさけ、単用散布とする。⑥周辺作物にかからないよう注意し、使用後の散布器具等は十分洗淨する。

また安全使用上、特に次の点に留意する。①通常の使用方法では毒性は低いですが、誤飲などないように注意する。②散布の際は、マスク・手袋などをして、散布液を吸い込んだり浴びたりしないように注意し、作業後は顔・手足など皮膚の露出部を石けんでよく洗い、うがいをする。

本誌掲載原稿の募集

本誌を愛読されている皆様より、原稿を募集しておりますので、ご寄稿下さい。内容は、除草剤、生育調節剤に関する記事であればよく、400字詰原稿用紙で20～30枚位、図・写真の挿入も可。原稿料は、当協会の規程によりお支払いいたします。